

### Ⅲ 今月のトピックス

#### 【大豆を巡る中国国内の需給状況】

国際的な大豆の供給面では、南米の干ばつの影響により生産量の減少が見込まれる中、消費量は中国が搾油用需要を中心として拡大しているものの、米国等で減少し、世界全体の消費量は減少すると見込まれている。しかしながら、消費量が生産量を上回ることから、期末在庫率は減少すると見込まれており、中国の旺盛な需要が続いていることから、大豆の国際価格は上昇基調にある。  
大豆を巡る中国国内の需給状況について、最近の動向について詳細に見てみる。

#### 1 中国の大豆の需給概況

中国国際青年会議所（JCI）によると2008年産大豆の生産量は、北東部の作付け面積の増加と前年度干ばつにより低下した単収の回復することから、前年度より317万トン増加し、1,650万トンとなる見込みである。また、輸入量も39万トン増加し、3,820万トンとなる見込みである。（注）これは世界の貿易量の約5割を占めている。

一方、消費量は食用／加工向け消費の増加から前年度より19万トン増加し、5,006万トンと見込まれている。

生産量と輸入量の増加分のほとんどは期末在庫に積み上げられると見られている。

注：米国農務省では、中国の大豆の輸入量は、生産量の増加に伴い減少するとの見方をしており、この点は見解が異なり注視が必要である。（33ページ参照）

#### 2 国内大豆価格の下落

中国では、シカゴ商品取引所（CBOT）の昨年夏以降の大豆の先物価格の急落に伴い、昨年11月に輸入先国から出荷される大豆の輸入価格が国産大豆の国内市場価格よりも安い水準となることが予想されていた。

一方、国内では、昨年10月以降、経済危機の影響などから大豆油と大豆ミールの販売が思わしくないため、搾油工場は2008年産大豆の仕入れに慎重な姿勢を示している。

このような中、大豆の国内市場価格は、2008年産大豆が市場に出荷された昨年9月直後から、価格の下落が始まり、現在に至っても下落傾向は続いている。これは平年には見られない現象である。

#### 3 政府の価格下落対策等

中国政府は、国内市場価格の下落対策と農家の利益保護を目的に国家備蓄用として、昨年末からこれまでに合計で600万トンの国産大豆の買上げを表明し、順次、国内市場価格より高い価格で買上げを実施している。

- ・ 2008年11月 150万トンの買上げを表明。
- ・ 12月 150万トンの追加買上げを表明。
- ・ 2009年2月 300万トンの追加買上げを表明。

なお、3月時点では、国産大豆は政府買上げの品質基準を満たせず、農家からの買上げ作業はあまりはかどっていない。

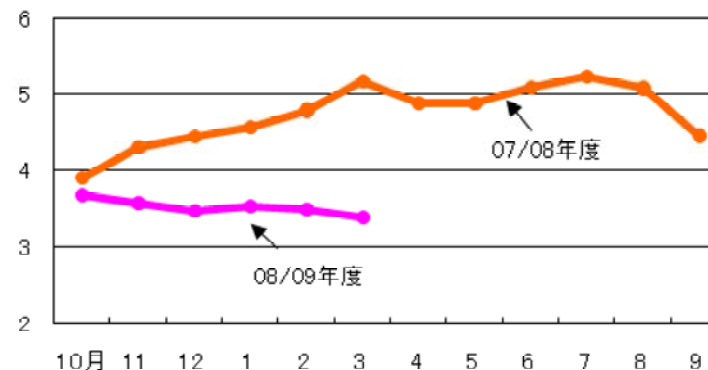
表 中国における大豆の需給表（2009年4月）

単位：1,000トン

作物年度（10月～9月）	07/08	08/09
期首在庫	3,392	4,220
収穫量	13,330	16,500
輸入量	37,815	38,200
供給量合計	54,537	58,920
国内消費量	49,870	50,060
食用／加工向け消費量	10,700	11,510
搾分合計	38,042	37,500
種子分	680	650
損失分	448	400
輸出货量	447	420
期末在庫	4,220	8,440

資料：JCI China

図－1 大豆の中国国内市場価格の推移  
（千円/トン）



資料：JCI China

#### 4 農家と国内搾油業者の動き

2008年産の大豆の収穫以降、国産大豆の国内市場価格が下落している中、農家は、政府が価格の上昇を促す対策を相次いで打ち出してくれることを期待して、新たに収穫された大豆の市場への出荷を見合わせる状況が続いた。

また、国内の搾油工場は、大豆の輸入コストの減少を踏まえて、仕入れ価格を急激に下げる工場もみられ、農家側の売り渋りと相まって、黒龍江省では大豆の取引がほぼストップする事態となった。

一方、政府による国内市場価格維持のための大豆買上げと、大豆の輸入価格の値下がりにより、12月以降、輸入大豆を国産よりも安く仕入れることができる状況となり、搾油業者が輸入大豆を原料とし設備稼働率を徐々にあげ始めた。1月に入ってから高収益を見込んで一部の搾油業者が米国産大豆を大量に輸入していることが、米国農務省（USDA）のデータで裏付けられている。

しかしながら、2月に入っても農家は搾油業者から提示されるよりも格段に高い価格を当て込み、売り渋る姿勢を崩さず、国内の大豆市場は全体的に相変わらず低調なままであった。ただし、この状況も3月になると一変し、春季の植え付けを間近に控えた農家が大豆の在庫を売りさばこうと躍起になっている。

なお、南部沿岸地域では、2月に輸入大豆の入荷が相次いだ。最近の積極的な買付状況から判断すると、今後も入荷が増えるのは間違いない。しかし、飼料部門の大豆ミールの需要が低調で、大豆油の価格も下落しているため、大豆の需要が減退し、供給がだぶついてきた。今後、供給過剰に陥ることを懸念して、すでに予約していた外国産大豆の積荷を解約しようと試みた買付業者もあると言われている。

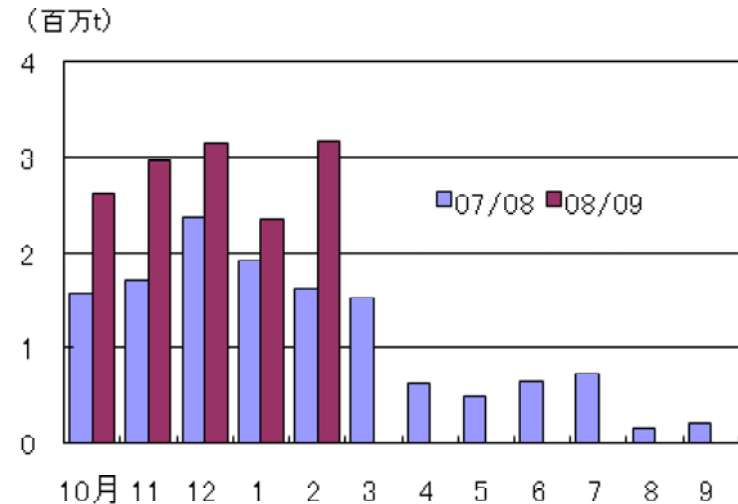
#### 5 今後の見通し

中国では、1～3月までの間に大豆の輸入量1,015万トン（前年同期比30%増）を記録したが、この急激な輸入増加は、一方で、大豆の国家備蓄と在庫の大幅な増加という状況ももたらしている。

ただし、ここ数ヵ月、中国の大豆の買付業者による輸入成約量は鈍化してきており、中国は国内の価格を維持するために大幅な政府買入れを行ってきたが、このことが国内供給の不足を招き、輸入大豆が大量に国内に供給されたことで、今後、中国の旺盛な需要は緩やかに下降をたどるとの見方もされている。

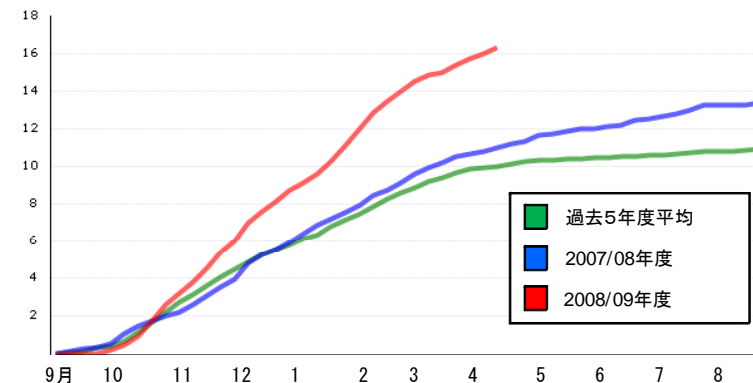
また、一部の農家が、在庫として抱える2008年産大豆をいまだに販売できずにいる中、2009年産大豆の生産に必要な資材（大豆種子、肥料、農薬、農具等）の売上げが昨年同期と比べて著しく低下している現状があることから、2009年産大豆の生産意欲の低下が懸念されている。このため、政府は、国家備蓄用大豆の品質基準を引き下げて、買上げのスピードアップを図るのではないかと見方もある。

図－2 中国の米国からの月別大豆輸入量の推移



資料：米国農務省「FAS online」

図－3 中国の米国における大豆の輸入成約状況（累積）

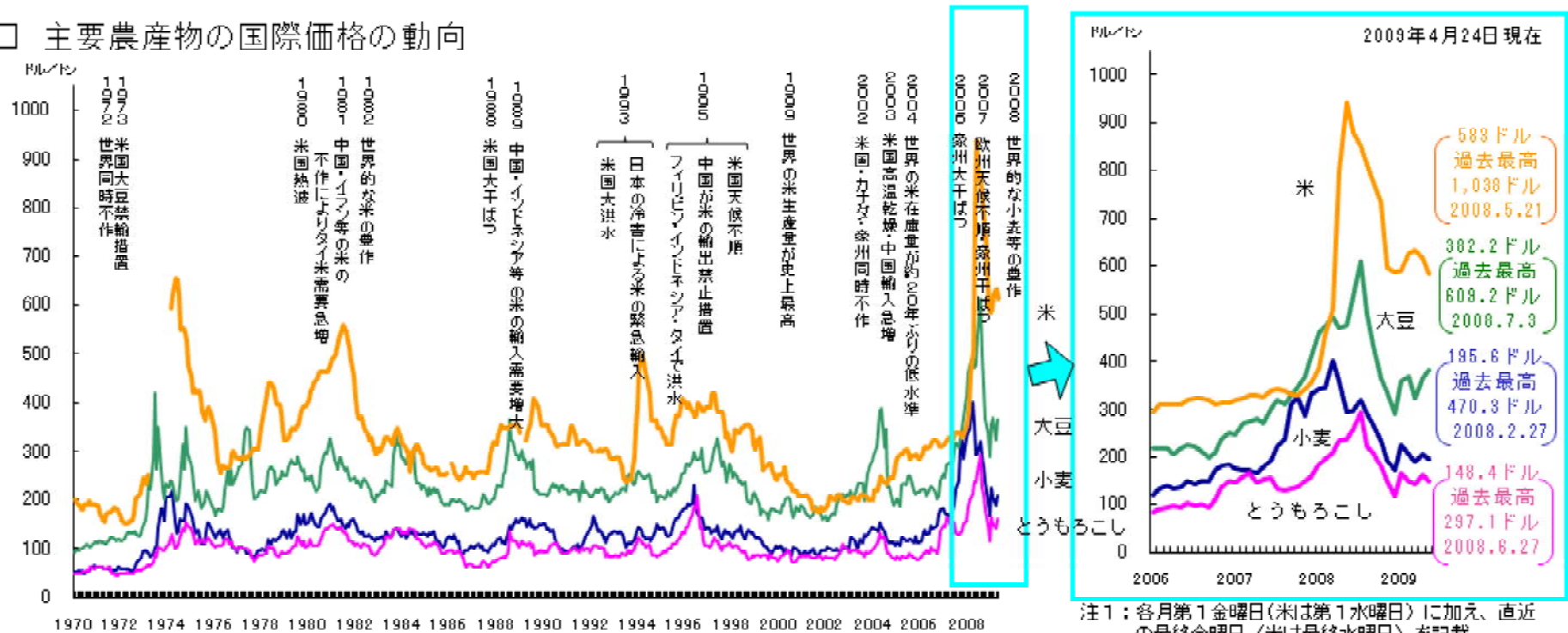


資料：米国農務省「FAS online」

【参考】穀物等の国際価格の動向（グラフ）

- 穀物等の国際価格は、2006年秋頃から上昇基調で推移。その背景には、穀物市場への投機資金流入といった要因もあるが、基本的には、穀物の種類によって差異はあるものの、
  - ① 中国やインド等の途上国の経済発展による食料需要の増大、
  - ② 世界的なバイオ燃料の原料という食料以外の需要の増大、
  - ③ 地球規模の気候変動の影響
 といった中長期的に継続する構造的な要因があり、こうした状況の中で、輸出国による輸出規制も影響している。
- なお、米の価格上昇については、農産物の中でも特に貿易量の割合が低く、輸出を少数かつ特定の国で占めている中で、ベトナム、インド等の主要輸出国で輸出規制が相次いで実施されたことが、主な要因となっている。
- 現在は、小麦等の豊作予測に加え、世界金融危機による商品市場からの投機資金の流出、世界的な不況による穀物需要の減退懸念などから最高値に比べ大幅に低下したものの、2006年秋頃に比べ1.4～1.9倍の水準。
- また、食料需給状況の中長期展望では、当面、従来に比べ高い水準の価格が続くものと見込まれており、食料価格高騰問題への対応については、FAOやG8等の国際会議などで議論が行われている。

□ 主要農産物の国際価格の動向



注：小麦、とうもろこし、大豆は、各月ともシカゴ商品取引所の第1金曜日の期近価格である。  
 米は、タイ国貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。